

クレジット:

UTokyo Online Education 東京大学朝日講座 2020 伊達 聖伸

ライセンス:

利用者は、本講義資料を、教育的な目的に限ってページ単位で利用することができます。特に記載のない限り、本講義資料はページ単位でクリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 ライセンスの下に提供されています。

<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等を本講義資料から切り離して利用することはできません。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。

フランス語圏の反イスラーム問題

総合文化研究科
伊達聖伸

1. はじめに

「フランス語圏」の「反イスラーム」問題

◎フランス語圏

- フランス
- ケベック州(カナダ)
- ヨーロッパ(ベルギー、スイス...)
- アフリカの旧フランス植民地(マグレブ、西アフリカ)

◎反イスラーム

- イスラモフォビア(イスラーム嫌悪)、反ユダヤ主義

マルセル・ゴーシェ『民主主義と宗教』

Marcel Gauchet, *La religion dans la démocratie*, Gallimard, 1998.

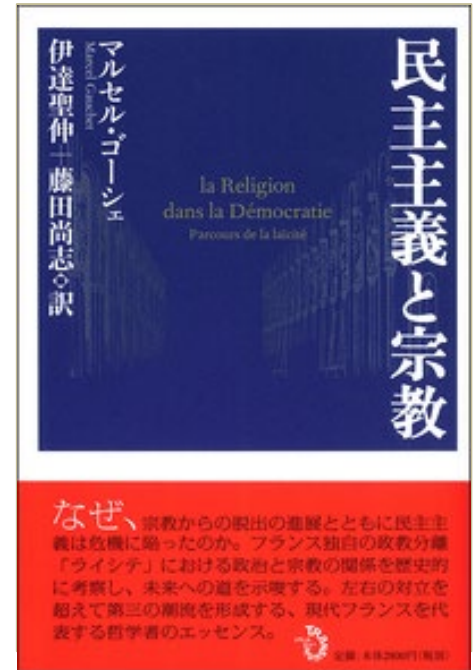


Marcel Gauchet Photo by Apollon, from Wikipedia [CC BY-SA 3.0](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/)

著作権等の都合により、ここに挿入されていた画像を削除しました。

表紙画像

Marcel Gauchet. 2001. *A Religion dans la démocratie*, Première parution en 1998, Collection Folio essais (n. 394), Gallimard.
<http://www.gallimard.fr/Catalogue/GALLIMARD/Folio/Folio-essais/La-Religion-dans-la-democratie>



マルセル・ゴーシェ(著)、伊達聖伸(訳)、藤田尚志(訳)『民主主義と宗教』(トランスビュー、2010年)
<http://www.transview.co.jp/book/b442715.html>

« La laïcité est l'un des foyers d'inquiétude d'une France inquiète ».

「現代フランスはさまざまな不安を抱えているが、その悩みの種のひとつにライシテの問題がある」。

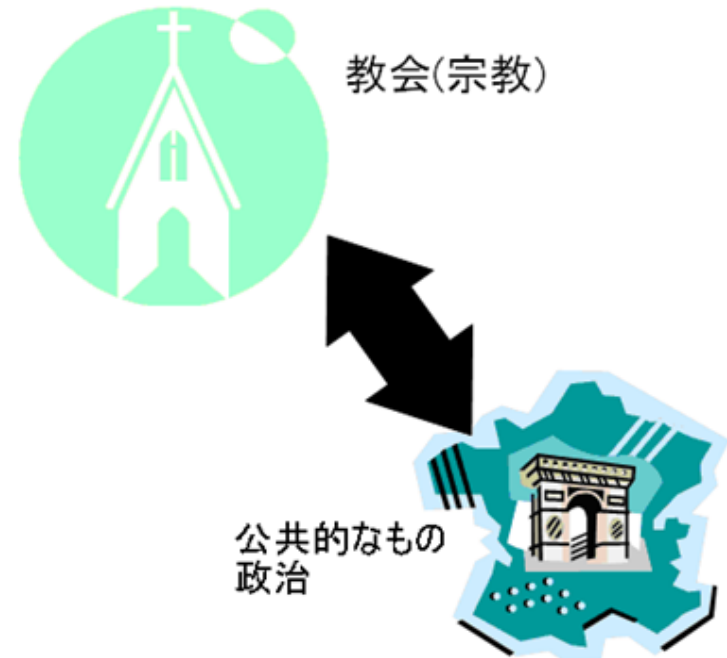
ライシテとは 「ライック」の意味の変化

中世 → 近代

【laïcモデル】



【laïqueモデル】



- ライシテ＝「フランス独特の厳格な政教分離」
 - イスラーム＝「政治と宗教を分けない」
- だから共生が難しい.....のだろうか？
- ムスリム差別は特にフランスで.....なのだろうか？

◎西洋全般 vs. イスラーム？

- 「欧」と「米」の違い
- 多文化主義（英米独など）と共和主義（仏）の違い
- 英語とフランス語の違い

「フランス語圏（仏・ケ）の反イスラーム問題」

→「フランス（を中心とする欧）の反イスラーム問題」



[PHOTO] gettyimages

講談社 現代ビジネス

<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/77437>

2020.11.18 # フランス # メディア・マスコミ # 不正・事件・犯罪

なぜフランスで「残酷な斬首テロ事件」が起きたのか、その「複雑すぎる背景」

はたしてムスリムとの対立が原因なのか



伊達 聖伸

東京大学准教授

プロフィール

2. アクチュアリティから パリ郊外教師斬首事件(2020/10/16)

- 授業で「シャルリ・エブド」のムハンマドの風刺画を見せた(2020/10/06)
- 犯人はチェチェン出身のムスリムの若者
- 「イスラーム過激派」と「ムスリム」の混同はしない、されていない、というのがフランスの世論のスタンダード。
- ライシテは信じる自由と信じない自由を保障するもの。表現の自由と宗教批判(フランスにはもはや冒涜罪は存在しない)。



[PHOTO] gettyimages

講談社 現代ビジネス

<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/77451>

2020.11.19

フランス

不正・事件・犯罪

メディア・マスコミ

フランス「斬首事件」の深層とは？ 日本人が知らない「厳しすぎる現実」

ムスリムとの共生に必要なもの

**伊達 聖伸**

東京大学准教授

プロフィール

- テロ対策の専門家はフランス国内外に展開されている「イスラーム過激派」のネットワークについて分析
- 内務大臣は「イスラーム過激派」とみなされるモスクを閉鎖、団体を解散
- 世論は「新イスラーム的左派」を糾弾
→「テロ」との有効な戦い方とは？

3. 現代ヨーロッパの不安



- 「多くの欧州人」の「陰鬱な懸念」:「膨大な数の移民たちを見ていると、そして彼らがまったく異なる生き方をしているのを見ていると、いずれは彼らが優勢になるかもしれないという気分になるのである」(180)
- 「欧州においてはすべてが容易に変わりうるという感覚がある」(399)

ダグラス・マレー(著)、中野剛志(解説)、町田敦夫(訳)『西洋の自死:移民・アイデンティティ・イスラム』(東洋経済新報社、2018年) <https://str.toyokeizai.net/books/9784492444504/>



- 「状況は悪化していくばかりだ」(471)
- 「日一日と欧州大陸は変わっていき、のみならずその変化に対する「軟着陸」の可能性も失われていく。…我々は政治家たちに…我々の故郷をまるで違った場所に変えてほしくない」(487)
- 「2050年、イスラム教徒人口が3倍に」(508)

数字の評価は公正か？

Pew-Templeton Global Religious Futures Project

スウェーデン

ムスリム: 4.6 (2010) → 12.4 (2050)

キリスト教徒: 67.2 (2010) → 52.3 (2050)

無神論: 27.0 (2010) → 32.8 (2050)

「1950年のスウェーデンはほとんど移民
がない、民族的に同質の社会だった。
それから1世紀後の2050年には、見た目
が一変していることだろう」(ダグラス・マ
レー(著)、中野剛志(解説)、町田敦夫(訳)
『西洋の自死: 移民・アイデンティティ・イ
スラム』(東洋経済新報社、2018年、511)

将来予測 (2010/2020/2030/2040/2050)

Pew-Templeton Global Religious Futures Project をもとに作成

	キリスト教徒	ムスリム	無宗教
イギリス	64.3/59.1/54.3/49.6/45.4	4.8/6.1/7.7/9.4/11.3	27.8/31.2/34.2/36.9/38.9
フランス	63.0/58.1/53.1/47.9/43.1	7.5/8.3/9.1/9.9/10.9	28.0/31.9/36.1/40.5/44.1
ドイツ	68.7/66.0/63.7/61.5/59.3	5.8/6.9/7.9/8.9/10.0	24.7/26.3/27.6/28.7/29.8
スペイン	78.6/75.2/71.4/68.1/65.2	2.1/3.3/4.6/5.9/7.5	19.0/21.0/23.5/25.2/26.5
イタリア	83.3/80.8/78.3/75.6/72.8	3.7/4.9/6.1/7.7/9.5	12.4/13.4/14.5/15.5/16.3
ポルトガル	91.9/90.5/89.1/87.7/86.3	1未満/1未満/1未満/1未満/1.3	7.5/8.6/9.5/10.5/11.3
ポーランド	94.3/92.5/90.8/88.8/86.8	1未満/1未満/1未満/1未満/1未満	5.6/7.3/9.0/10.9/12.8
ボスニア・ヘルツェゴビナ	52.3/51.1/50.0/49.2/48.5	45.2/46.5/47.7/48.6/49.4	2.5/2.4/2.3/2.2/2.1
ロシア	73.3/72.9/72.4/71.9/71.3	10.0/11.4/13.1/15.0/16.8	16.2/15.2/13.9/12.6/11.3

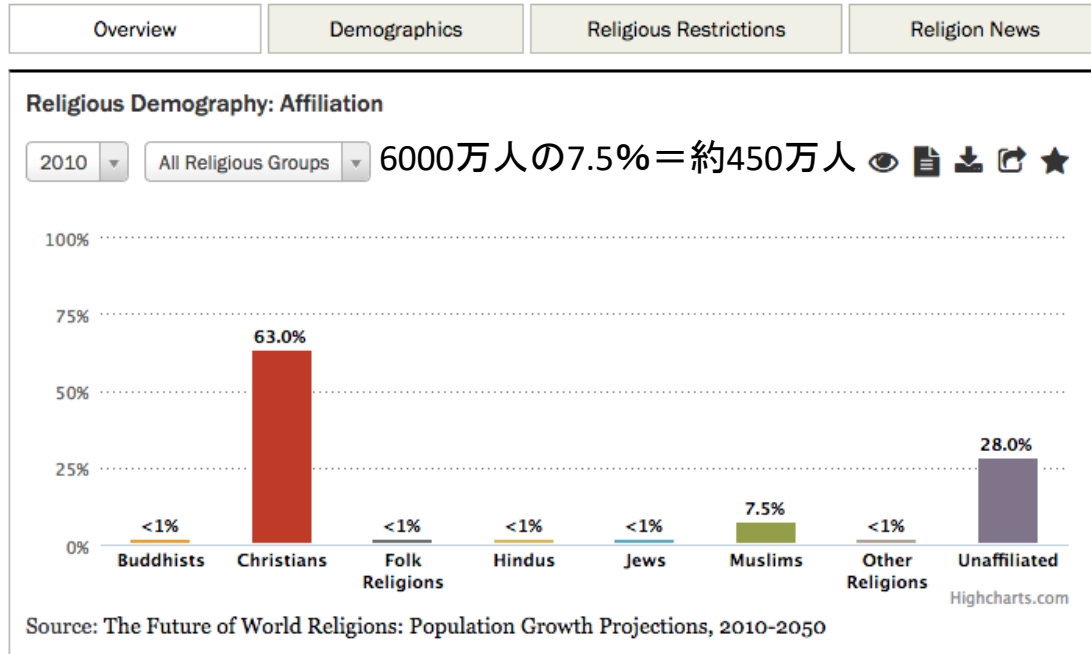
France

[Compare France](#)

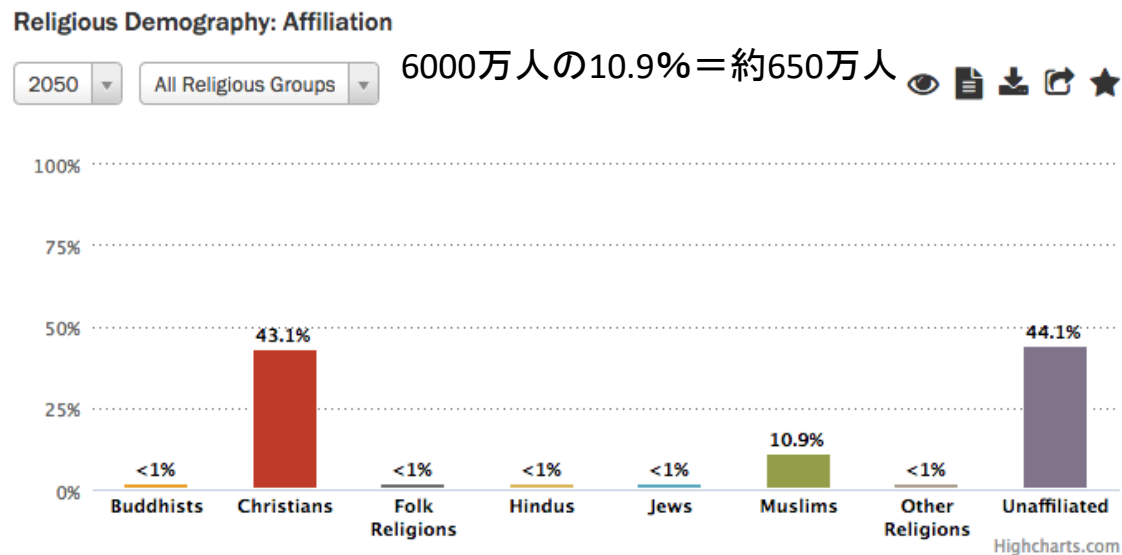

Related Pew Research Reports

The Future of World Religions: Population Growth Projections, 2010-2050

Muslim Networks and Movements in Western Europe



"The Future of World Religions: Population Growth Projections, 2010-2050" Pew Research Center, Washington, D.C. (2015)
<https://www.pewforum.org/2015/04/02/religious-projections-2010-2050/>



伊達聖伸(編集)『世俗と宗教: 近世から現代まで』(勁草書房、2020年)

<https://www.keisoshobo.co.jp/book/b535778.html>

4. 不安のメカニズムとその克服のために



- 「これまで人々は常に、供犠を、供物を捧げる者と《神》(ディヴィニテ)との間の媒介としてきた」(10)
- ところで、「神がもはやわれわれ現代人にとって、すくなくとも流血の供犠というものが何らの現実性を持たなくなった現在」(10)、供犠をどう解釈したものか
- 「いけにえは、その社会の成員全部の身代りとなり、同時に、その社会の全員によって、その社会の全員に提供されるのである」(12)

R・ジラール(著)、古田幸男(訳)『暴力と聖なるもの<新装版>』(法政大学出版局、2012年)
<https://www.h-up.com/books/isbn978-4-588-09962-5.html>

「フランスのイスラーム化」か、 「イスラームのフランス化」か、 そのはざまを生きているフランスのムスリム

- アブデヌール・ビダール: 暴力的な「原理主義」を産み落としている「イスラーム」の現状を批判しつつ、硬直化したライシテも批判。ムスリムとしての信仰を深めながら、ライシテのあり方を刷新する志向性



伊達聖伸『ライシテから読む現代フランス：政治と宗教のいま』
(岩波書店、2018年)

<https://www.iwanami.co.jp/book/b352596.html>



フランスの逆境を理解するために

- 外的要因
 - 対ドイツ
 - 対英語
- 内的要因
 - 学校の機能不全
 - 高い若者の失業率
 - 移民の統合
- ◎「普遍的規範」が「例外」に

著作権等の都合により、ここに挿入されていた画像を削除しました。

表紙画像

Marcel Gauchet, Eric Conan, et François Azouvi. 2016. "Comprendre le Malheur Francais", Stock.

<https://www.editions-stock.fr/livres/essais-documents/comprendre-le-malheur-francais-9782234075412>

グループワークテーマ

- ムスリムとの共生のためにはどうすればよいのか？
- 現代フランス社会のイスラームに対する不安の原因はどこにあるか？
- 殺害されてしまった教員がムハンマドの風刺画を授業で見せたことは適切だったのか？
- 「過激派」を特定して取り除くのは治安にとって必要だが、効果的なのか？
- すでに日本に多くいる「他者」にどう向き合うべきか、現状を踏まえて今後どうしていくべきなのか？